

## 低緯度古環境指標としての陸域年縞堆積物 特に鍾乳石に保存された情報に注目してー

### Annually banded geological materials on land as archives of low latitude paleoenvironments - example of stalagmite

# 竹村 恵二 [1]; 田上 高広 [2]; 余田 成男 [3]

# Keiji Takemura[1]; Takahiro Tagami[2]; Shigeo Yoden[3]

[1] 京大・理・地球熱学研究施設; [2] 京大・理・地惑; [3] 京大・理・地球物理

[1] Beppu Geo. Res. Labo., Grad. Sci., Kyoto Univ.; [2] Earth and Planetary Sci., Kyoto Univ.; [3] Dept. of Geophysics, Kyoto Univ.

年縞堆積物は、地質学的に高精度の時間分解能のデータを提供する重要な地質学的素材である。たとえば、氷縞粘土、湖沼における年縞堆積物、石灰岩洞窟で生成される鍾乳石、サンゴなどである。陸域は基本的に浸食場であるがゆえに、情報の保存能力が低く、普通の陸域堆積物では高精度時間分解能の古環境データは期待できない。陸域の環境変化を地質学的に高分解能で獲得できる素材は、湖沼における年縞堆積物、石灰岩洞窟で生成される鍾乳石と、堆積物ではないが、年輪が重要な対象となる。我々は、21世紀COEプロジェクト「活地球圏変動の解明」を実施する中で、熱帯域の気候変動の情報を高精度に保存する素材として、年縞を形成する鍾乳石に注目して研究を開始した。中緯度モンスーンの研究では、2000年代に多くの鍾乳石を用いた研究が実施されてきた(Wang et al., 2001 など)。本講演では鍾乳石を素材として低緯度陸域古環境研究手法の課題を紹介する。